

## 平成 29 年度 第 1 回人権読本ぬくもり第 3 版検討委員会 議事録

- 1 日時 平成 29 年 5 月 24 日(水) 15:30~17:00
- 2 場所 教育委員会会議室
- 3 出席委員 12 名
- 4 傍聴人 なし
- 5 議事

### 【委員長】

時代の変化により人権問題への眼差しも変わってきているので、第 3 版の改訂にあたっては、あらゆるものを見直すという気持ちをもってよりよい教材にしていきたい。学校現場の様子も反映しながら、色々な場面で活用できるよう、悔いのないように作っていきたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

### 【委員長】

「ステキな関係」について検討したい。

### 【委員】

授業展開の中で、最初は交際相手との人間関係だが、途中で一般的な人間関係と変わっており、最後の教師の終末は交際相手とのステキな関係に戻っている。交際相手との人間関係にするのか、一般的な人間関係に広げるのかをどう考えているのか。

提示された調査資料は、4つの項目（身体的暴行、心理的攻撃、経済的圧迫、性的強要）が明記されている。デートDVの定義については、指導上の留意点には、経済的圧力、性的強要の説明もあるが、授業では身体的な被害や心理的な被害しか触れていない。性的強要については、うがった解釈をすれば嫌がっていなければいいのか、という解釈にもつながり、非常に難しい所である。グラフを出すとこの文言が出ていくという事になるので、取り扱いをどうすべきか伺いたい。

### 【事務局】

執筆者は男女の関係についての活動を位置付けていたが、同性間の束縛といった人間関係も含めて、最初は男女間の話で展開し、後段で間口を広げて一般的な人間関係に広げるという事で作業部会で検討し、修正している。

検証授業の中で、デートDVの被害の内訳があれば載せるべきという意見があり、内閣府の資料をそのまま掲載しているが、当然、提示する資料についても生徒が捉えやすいように、また、こちらの意図が伝わるように再度修正を図っていく。

指導上の留意点の中に提示している4つの項目（身体的暴行、心理的攻撃、経済的圧迫、性的強要）は、内閣府が定めているデートDVの定義であり、指導者としては理解をしたうえで授業をする必要があると考えているが、授業では、デートDVは、学習活動に示してい

る「身体的な被害」や「心理的な被害」のみを取り上げて説明している。子どもたちに伝えるべき内容と指導者が知識として踏まえていく内容とに整理して記載している。

**【委員長】**

人間関係の基本として捉えるならば、男女の問題は男女共同参画に任せて、同性を含めての人間関係の教材にしたほうがよかった。この教材にする意味としては、男女の関係、恋愛関係であるがゆえに、色々な無理を通すという事に焦点をあてるべき。

**【委員】**

福岡市の人権8課題の中では、女性に関する人権問題に焦点をあてた題材ではないか。

**【委員】**

検証授業を見ていると、デートDVの話で生徒の意欲が高まったが、最後にデートDV以外の人間関係になった所で生徒の意識が下がった。授業者も難しかったようだ。ただ、このステキな関係は、デートDVだけでなく人間関係にも基本的に通じるので、ステキな関係ってどういうものかを考えた後、最後に、これは男女に限らず、同性同士でも大人や子どもでも、横の関係でも大切なことであるよね、という風に補足的に説明したらいいのではないか。途中で、子どもの思考が変わってしまった気がする。

**【委員長】**

基本的には、一つのテーマで展開したほうが、子どもの理解がぶれなくていい。

**【委員】**

「なんか文句あるとや？」の部分は心理的DVの場面そのものであって、もめたわけではない。展開例にもめた日の夜となっているので、展開例の表現を変更したほうがいい。

**【委員】**

本校でも男女のこのような題材を使って道徳をしたが、最後に教員が一般的な結論に持っていこうとして不自然になっていたのを、一つに絞った方がいい。挿絵を検討するとのことだが、ベンチで男の子と女の子が座っている後ろ姿など、挿絵の効果として、子どもたちのイメージが膨らむようなものがあるといい。

**【事務局】**

取り入れさせていただく。

**【委員長】**

性的強要など、中学校の性教育の中で、先生方の不安感はどうか？

**【委員】**

この教材を扱うのに、教師側が気を使う部分はある。携帯電話の使い方は家庭に任せているが、携帯電話がらみのトラブルも多いので非常に神経を使う。ただ、現実的に考えるとよくあることなので、教師側でしっかりフォローする必要がある。

**【委員】**

この題材は、ひどいと思った女の子も実は似たようなことをしていると指摘されるという所が、誰にでも起きうる事として、とてもよくできた教材。この前実施した授業の中でも、「好きがあるけん難しい。好きがあるけん我慢する。」という意見がでたが、この題材でもきっとそういう意見が出ると思うので、素晴らしい題材。問題を指摘して相談した側にも「君もそんなことあったじゃない。」と言われてハッとすることで終わっているのだから、教材として取り扱いたい。

**【委員】**

このようなことは学校現場では実態としてある。性教育は大人の視点で「ここまで言っているのか？」と不安視する部分もあるが、以前、子どもたちへの性教育の授業で先生が具体的な話をしたが、あとで生徒の感想を聞くと、「モヤモヤしていたことがすっきりした。」とか、保護者も肯定的な意見が多いなど、教師の方が躊躇している部分があるのかとも思う。

グラフは被害がある部分に焦点があたるような工夫が必要。

女の子同士は仲良しグループなどで囲い込みがあるので、題材はデートDVでフォーカスし、そこに繋がる題材になれば、非常に幅が広がるものとなる。

**【委員】**

市民局の男女共同参画課が深刻なデータを持っていたのではないかと、5年前にリーフレットを作成したようだ。

**【事務局】**

平成27年度に所管課がデートDV研修を実施しており、その中に横浜市の高校生を調査をしたデータはある。ただ、福岡市では調査をしていないとことだった。再度確認する。

**【委員】**

めあてが「どうすれば？」となったときに、学活的なことで「メールを返したらいいやん。」という方法的な意見がでる授業展開になったようだが、道徳のめあてとしては、ステキな関係をつくるにはどうしたらいいか考えよう。として、道徳的なねらいに結び付くようにするべき。

**【委員】**

「まいちゃん」は自分の事を「まい」というのか気になる。幼いのではないかな。

**【委員長】**

大学生でもこういう言い方をしており、設定としてはあり得える。これまでの意見を踏まえて検討いただきたい。

次に「兄ちゃん」と呼べた日についてについて、検討したい。

**【委員長】**

冒頭の5行目、中学校3年生が主人公に言ったお兄さんを表現する言葉は、学校現場ではどのような言い方をするのか。「あきお君」、「あきおさん」なのかしっくりこない。

**【委員】**

名字で呼び捨てにする方が自然。

**【委員】**

「にやにや」はカタカナの方がいい。

**【委員】**

表記が職場実習や実習となっているので統一するべき。句読点の位置等の表記も整理するべき。

**【委員】**

表記について、鍵カッコの使い方で気になることがある。文章として表記の場合は読点が必要。点がある時点で文になるので丸がないとおかしい。表記は最後に丁寧に確認の必要がある。

**【委員長】**

会話が文章に入り込んでいるが、会話を独立させる場合があるとどちらがいいのか。

**【委員】**

会話が多く、一つ一つの会話が短いので、ぬくもりの場合はこの形が読みやすい。「ここは」という所は、会話を独立させてもいい。

**【委員】**

小学校版の時は、国語研究会にチェックをお願いした。

**【事務局】**

中学校版についても協力いただけるのであればお願いしたい。

### 【委員】

文章表現はよくなっている。4番の発問で「何が間違っているか。」という発問があるが、間違っているか？と聞くと間違いを探すことになる。道徳的には、自分で判断して、間違っているかどうかも含めて考える展開にするべきなので、「母親の言葉についてあなたはどう思いましたか。」の方がよい。

### 【委員】

若手の先生にこの資料を使って研修をした、2ページの子どもを連れた母親の言葉に「さっきの店員は」を加えたほうがよい。

展開は、2番の問いが、障がい者を差別している場面をあげましようとするので、3番、4番の答えは、ここで全て出てくるのではないか。この題材は、3つ大事な場面があるので、3人の登場人物にクローズアップして、きちんと押さえていくといい教材になる。

### 【委員】

差別の場面を取り上げる中で、母親の発言の部分は、障がい者への理解がなく、障がい者を雇用して共生社会を創っていこうとする考えが欠落していることがはっきりわかるので、きちんと教えるチャンスでもある。間違いを指摘し、しっかり押さえたほうがよい。

私も差別意識が変わったということだが、1ページ目「私と兄の関係も変化していった。」は兄は何ら変わっていないので「私の兄に対する見方が変わった。」とすべき。2ページ「当然ながら見送りとなった。」というのは、一度失敗したらダメなんだという刷り込みになりそうなので、変更したほうがよい。

### 【委員】

感情がはいるので、「そして」などの方がよい。

### 【委員】

社会モデルと医学モデルの資料は使い方が提示されていないが、誰にとってもよりよい社会を目指して障がい者を雇用している企業があるなどの押さえにも使えるので、是非活用してほしい。

### 【委員】

共生社会はとても大事である。弱い人間は本当に弱いので、健常者も障がい者もお互いを認めあって、共に生きていくために、本当の共生社会とは何かを考えてほしい。

ダウン症の弟を持つプロ野球選手のエピソードもあるが、真実のものには涙がでると感じる。ぜひ、そういう観点で題材を作成してほしい。

センター長さんの言葉もとげがある。一言の言葉で違ってくるので、本当のやさしさが伝わるようにしてほしい。センター長さんの人柄がもう少し出る感じがよい。

**【委員長】**

この題材は、お兄さんの能力がすごく評価されているが、センター長は能力がなかったら認めなかったのかという懸念がある。この兄さんのように全ての人が優れているわけではないので、能力があるから採用するけど、能力がなければ採用しないぞと見えないよう、センター長の人柄がわかるようにしてほしい。

**【委員】**

世の中の目は、障がい者をできない人という見方をする。その意識を変えたい。それぞれ、できることがある、得意なことがある。障がいがあるなしにかかわらずいい所があるので、それを生かして、よりよい自己実現をしていくという事を大事にしてほしい。

指導案に、読む前に「自閉症について偏見をもたせないように説明をする」と丁寧に記載があるが、偏見を持たせないようには削除し、自閉症には、このような特性があるという説明をして、得手と不得手という切り口で、障がいを知って理解していこうとする切り口にしてほしい。

**【委員長】**

偏見を持たせないようにというのが偏見。

**【委員】**

障害者差別解消法も施行され当事者は盛り上がっているが、現実には一般の方には全然知られていない。障がい者も頑張っていることを一般市民も認めてくれなければ絵に描いた餅になる。このような題材を通して皆さんに理解してもらえるとありがたい。

**【委員】**

めあてが大きいのが焦点化して書き直すのか。主人公の考え方が変わっていく場面とセンター長が語る場面のどっちをとるのか。ねらいも大きいので、道徳的価値の「公平・公正・社会正義」の社会のありようを考えるとの整合性の整理がいる。

**【委員】**

中学校3年生であれば社会科でも学習するし、将来の生き方にもかかわるので、共生社会という言葉の明記しきちんと教える必要がある。

**【委員】**

今の社会は、共生社会の考え方が全ての基本にある。そういう観点はぜひ組み込んでほしい。

**【委員長】**

めあては「共生社会のあり方を考える」とし、きちんと教えていく方向で進めて欲しい。

**【事務局】**

その他の検証授業後の方向性について説明。

**【委員長】**

「目標に向かって」は、本人が語る書き方にした方がいい。その後のいくつかの展開があるが、人が描写すると伝わりにくい。

**【委員】**

文章は自らの言葉として書いた方が印象が変わるので、そういう方向の方がよい。

**【委員長】**

今日の意見を踏まえて、作業部会で検討してほしい。

6 今後の予定について

7 閉会